

観光客へのおもてなし 虻田高校生足湯を清掃

虻田高校（阿部孝志校長）の生徒が、9月3日洞爺湖温泉街にある足湯と手湯を商業科2年生17人が清掃し、温泉街の美化に一役買いました。

同校では、観光の科目があり、清掃活動を通して町の観光について考えようと毎年行っています。

当日は、あいにくの雨で、少し肌寒い天候でしたが、3班に分かれ、「洞龍の足湯」「足湯ポケットパーク」「長寿と幸せの手湯」の3カ所を清掃。お湯を抜いた足湯をデッキブ

ラシでこすり上げ、湯あかを落とすきれいにしました。



洞龍くんを磨く虻高生

洞爺中学校（加賀谷真由美校長）で、9月4日、洞爺湖温泉出身の



奥山さんの指導で行われた「現代的なリズム」の授業

インストラクター、奥山綾子さんが、2、3年生23人にヒップホップダンスの指導を行いました。

今回は、保健体育の必修科目「現代的なリズム」の講師として、恩師の依頼を受け、洞爺中学校での指導が実現しました。

授業では、ヒップホップダンスの歴史にふれながら、基本的なステップなどを自ら披露。生徒たちにダンスの楽しさを伝えました。

洞爺中でダンスの楽しさを伝授 町出身の奥山さんが指導

洞爺湖温泉観光協会は、北海道電力泊原子力発電所がある泊村



確認書を交わした（左から）真屋町長、山下共和町長、若狭観光協会会長

に隣接する共和町と、9月6日、洞爺湖町役場で「原子力災害時における住民避難支援に関する確認書」を交わしました。

泊発電所で原子力災害が発生した場合、共和町の住民を温泉街のホテルなどで受け入れるというもので、自治体間での協定は、道内では初めてとなります。

真屋町長は「万が一の時の一助になればと思っています。地域一体となってお役に立ちたい」と話し、若狭観光協会会長も「困った時はお互い様。全面的に協力していきたい」と支援を約束しました。

原発事故時の住民避難支援 共和町と確認書締結

前浜でマツカワを放流 虻小3年生資源回復にお手伝い

高級魚マツカワの資源回復を願い、9月19日、虻田小学校（成田



成長を願いマツカワを放流する虻小3年生

浩司校長）の3年生57人が、町内本町の前浜でマツカワの種苗約5,000匹を放流しました。

虻田小の3年生は、総合的な学習で町の特産物について勉強して、その一環で放流に参加しました。

児童らは、1時間ほどの事前学習の後、前浜に到着。かごに入った、体長10センチ、重さ14グラムほどに育ったマツカワを波打ち際まで運び、「大きくなってね」との願いをこめて放流しました。

まちのわだい

